



解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

もう10年以上前になるだろうか。アシュラムセンターが主催した聖地旅行で、死海を訪れたことがある。延々と続く砂漠の中に突然現れる青い湖。しかしそれは、私たちのよく知る「琵琶湖」とは、全く趣を異にしていた。「地中海面下392m、世界最低の地にある。従って水は全て流入するのみで流出しないが、1日に水位1cm蒸発する」という。(中略)塩分含有量25%、南西岸には塩砂丘が起伏している。「(聖書小辞典)より)。砂漠の真ん中になみなみと水を蓄えた死海は、しかし飲むことのできない、高濃度の塩水なのだ。聖書はこの湖を「塩の海」(創14・3他)と呼ぶ。塩は、私たちの体になくてはならぬ大事な物質ではあるが、あり過ぎるとそれはまさしく「死の海」となってしまう。また、反対にそれが全く無くなってしまうならば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、なんの役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。」(マタイ5・13)ものとされるのだ。

「いつも、塩で味付けされた快い言葉で語りなさい。」(コロサイ4・6)。今回の選ばれた聖句は、コロサイの信徒への手紙の中の一節である。パウロは、この手紙の中で、當時教会の中に入り込んできたギリシャの知識や哲学によって惑わされず、主イエスキリストの福音にしっかりと立ち、生活するよう勧められている。そして牢につなされた自分たちが、キリストの秘められた計画を語るために、門が開かれるように祈って欲しいと語り、こ

瞑想

いつも、塩で味付けされた快い言葉で語りなさい。

コロサイ4・6

主幹牧師 榎本 恵

と効いた快い言葉とはそれほど簡単なものではない。あまり効き過ぎると「硫黄と塩で焼けただけ、種は蒔かれず、芽は出ず、草一本生え」(申命29・22)ぬ死んだよなものとなってしまう。逆に効かぬ過ぎれば、「味もないものを、塩もつけずに食べられようか」(ヨブ6・6)と吐き出されてしまうのだ。「いい塩梅」などという言葉もあるが、これがなかなか難しい。一体、

要な役割を持つということである。レビ記には、献げ物の規定の中に次のような一節がある。「穀物の献げ物にはすべて塩をかける。あなたと神との契約の塩を献げ物から絶やさない。献げ物にはすべて塩をかけて献げよ。」(レビ記2・13)。防腐の役割をもち、そこから永遠に変わらぬものと解された塩は、まさに日々献げものを献げる度に思い起こすべき神の変わらぬ契約であり、その神への応答としての私たちが永遠に持ち続けるべき信仰なのだ。「すべて、あなたの供え物は、塩を添えてささげなければならぬ。信仰が添えられていなければ、どんな供物も、それは神に通ずるものではない」ということである。」(榎本保郎「旧約聖書一日一章」レビ記2章)より)

私たちがどんなに知恵の言葉や配慮の言葉を相手に対して用いたとしても、そこに永遠に変わらぬ神への信仰がなければ、それは塩で味付けされた言葉とはならないのだ。友よ、私たちは、塩で味付けされた言葉を語ろうよ。だんだん語ることに難しくなってくるこの時代の中にあって、主の約束を信じ、そこに立ち、語っていくものとなるようよ。

2017年

LA 1泊2日アシラム

鈴木 満次

ロサンゼルスでのアシラムは4月3日と4日、太平洋を見下ろす丘の上にあるMary & Joseph Retreat Centerで開かれた。今年のアシラム運動の創始者

である榎本保郎牧師がここLAで召されて40年になるということ、先生の長女のつ子さんも参加された。リーダーはもちろん去年と同じ長男の榎本恵師。4月とは言え潮風



で寒いくらいの気候だったけど、ここはサボテン系の奇妙な花が満開。時々色気のない孔雀の鳴き声が聞こえる。そうあのピーコックである。羽を広げると極楽鳥のようだけど、異性を呼ぶ鳴き声は興ざめの絶叫音。ここはカトリックの修養会などするところ

で、敷地内には祈り用のベンチや静かな場所がいくつもあるのです、そこで黙想することもできる。寒くない時は課題の詩編30-32篇をここで読んだ。今年の僕のRoommateは日韓米の文化と言語を自由に解する金ホンソン師。参加者は全部で7名。ここで文字通り、寝食を共にし、日本語を解するキリスト者が、同じみ言葉を読み、黙想して、祈り、同じ讚美歌をうたい、そして思いを語り合っていた。使徒行伝に記されている信徒の様に、み言葉の講習会でも勉強会でもなく、従って恵先生も進行役に徹して、もっぱら参加者一人一人の自分の言葉で語り、そして聴き合った。生まれも育ちも経験も年齢も全く異なる7人がこのこの異国の空の下で、真中にいるであろうイエスへの思いを語り合う、不思議な体験だった。部屋に戻ってからは僕よりは20歳以上も若いKim

さんの賜物を生かしたMultiethnicと呼ばれる多人種への伝道の夢と現実を遅くまで日本語で語り合った。つ子さんも直美さんも(嫁姑の関係ではありませぬ)初めて会ったのに、何十年来の友達

の様に親しく交わらせてもらって、主にある交わりの素晴らしさを、この丘の上で先取りさせてもらうような素晴らしい体験でした。(West Covina Christian Church)

三重アシラムに参加して

酒井 玄

四月十四日(金) 十五日(土)に「第二十四回三重アシラム」に妻と二人で参加しました。榎本保郎牧師の著作は以前から愛読し、滋賀県近江八幡市のアシラムセンターにも関心がありました。四月になり、アシラムセンターに訪問したい旨を電話したところ、九十一歳の榎本和子さんが出て下さり「今度ある三重アシラム、すごく良いですよ。私も参加します。ぜひお越しください」と明るく話され、参加を決めました。また、長年三重アシラムのためにご主人と共に奉仕されている小林佳子姉にも連絡し、とても丁寧にご説明下さったので、神様に全てを委ねて三重県に向かいました。当日は、ほぼ全員が何度も参加されている方でしたが、初めて参加する私たちのことも、温かく迎えて下さり、とても嬉しく、また安心してしました。二日間、徹底して御言葉と祈りに集中する中で、静かでした。

- ご献金者 敬称略
3月分
中谷 朝子
引原 勝美
金山 良雄
橋本 和子
榎本 てる子
鹿屋 順子
キリスト教会 晴夫
三好 育世
沢田 敏夫
藤原 千枝
豊田 千枝
香西 信
朽木 順子
山部 久子
山部 久子
吉川 禮子
(受難週 克己含む)
伊達 康子
伊達 平和
プラジール
サワーデ教会
プラジール
キリスト
宣教教会
ルージャモス
アイアンズ
プラジール
職教会
常任運営委員会
無名氏
上田 圭子
横山 宜和
唐渡 睦子
村瀬 俊夫
吉田 美子
植松 喜美子
越智 千歳
上柿 京子
山田 久子
香川 孝子
正岡 リッコ
井上 明
井上 謙美子
村上 勇子
持田 裕子
脇 萬里子
園田 登志美
福岡 聖書教室
カフェいらいば
聖書入門講座
大山 悠子
明石 シオン
岩波 久一
伊達 知恵
猪瀬 和子
折りの家集會
ちいらば福音記念
チャペル礼拝
大阪聖書教室
石井 美雪
尾崎 幹二
尾崎 恵子
米田 康子



第24回三重アシラム 2017.4.14-15

も力強い神様の働きを
はつきり感じました。
今回は主題聖句「暗い
所に輝く」とも「火」
(第二ペトロ一章一九
節)を含む第二ペトロ
一、三章を二日に分
け、一章を一時間かけ
て読みました。最初は
時間の経つのが遅く、
雑念と戦いながら聖句
と向き合いました。し
かし、三度、四度と読
むうちに「神様が何を
語っておられるのかだ
けを求めよう」と、心
が研ぎ澄まされるのを
感じました。一章読み

(大阪中央
キリストの教会)

終わる毎に、ファミ
リー(四、六名のグ
ループ)内で感じた
ことを分かち合いま
した。一人一人の表
情がとても明るく、
言葉にも力があり、
神様とつながる喜び
にあふれていました
。また、お互いの
ニーズを分かち合
い、祈り合うこと
で、すばらしい交わ
りの時になりました。
これから一年間
「…体では離れてい
ても、霊ではあなた
がたと共にいて…」
(コロサイ二章五
節)の聖句通りに、
離れていても一人の
ためにファミリー全
員が祈っていくこと
を楽しみにしていま
す。また、私の今後
の信仰生活でも、御
言葉と祈りに集中
し、周囲に神様の働
きを証ししていきま
いと思えます。

歌子 明子 和子 恵子 康子 光太
米田 邊本 喜多川 榎本 榎本 センター
聖書教室
菅田 吉田 すみえ 船橋美和子 安仲 萌子 静岡聖書教室 塩沢ふさ子 堺大派

キリスト教会
渡辺美寿子 かよ 徳文 多賀世 禮子 諭子 麗屋
キリスト教会
73口
¥1,718,344

榎本 保郎 牧師 召天40周年記念 事業のために 園田 登志美 榎本 恵子 榎本 2口
¥15,000

ヨセフ基金 常任運営委員会 無名氏 園田 登志美 アツちゃん・ シュラム君 吉田 すみえ 5口
¥21,000

新修道場計画 園田 登志美 1口
¥5,000

会堂改築 嶽田 達明 無名氏 2口
¥35,000

誕生感謝 黒澤 謙之助 黒澤 ヒサ子 古川 良男 式 久恵 3口
¥17,000

合計 86口
¥1,811,344
感謝いたします

三重アシラム

恵みの時(奨励) (1)

日本キリスト教団 金城教会 牧師 下村 徹嗣

マタイ16:21-26

本日はたまたま受苦日
にあたります。今日は私
のささやかな「受苦」の
ことを証させていただき
ます。

私は昨年8月、軽い脳
梗塞を患いました。発症
する前の晩、うたたねし
ていたソファから立ち
上がろうとしたとき右足
が少しギクシャクする感
じがありました。寝れ
ば治るだろうと思いつ
のまま寝ました。翌朝起
きてもその違和感があり
ましたが、いつもの通り散
歩に行ってみました。歩
けないことはないものの
違和感は強くなってしま
した。

そこで時間外救急セン
ターに電話したところ、
すぐ救急外来で診察を受
けるよう指示されまし
た。CT、MRI検査に
ははつきりと左脳に脳梗



塞の症状が現れており、
そのまま入院となりまし
た。ちょうどその頃、松
阪教会、津教会などの説
教をお引き受けしており
大変ご迷惑をおかけしま
した。しかしこれが現役
の牧師のときではなかつ
たことを神に心から感謝
しました。
また、幸いなことに発
症した部位は機能マヒが
ひどくなるその一ミリ手
前のところで止まってお
り、さらに言語障害や記
憶障害を司る部位も侵さ
れていませんでした。右
足は少し不自由でしたが
自力でトイレに行くこと
もでき、12日間入院した

ところでしばらく自宅静
養となりました。その後、
節酒、無理はしない、ま
た食生活に気をつけると
ともに、血液サラサラ薬
を飲むということで現在
に至っています。
いまま後遺症のなものと
しては、右足の動きがぎ
こちなく、足取りがヨタ
ヨタするところが、あり、
体の動きが以前より遅く
なっているくらいで感謝
です。ただ脳梗塞は再発
しやすい病気だし再発す
れば機能マヒはもっとと
ひどくなると言われて、い
つ何がおこるかかわらな
いという不安はいつもあ
ります。今回は軽くてす
みましたが同じ頃、家内
も体調を崩し、二人とも
これまで当たり前と思っ
ていたことが突然できなく
なり、たとえ一時的であ
っても人の世話になっ
て生きるという生活がわ
れわれにもあてはまるも
のとなりました。子ども
がいないので終の棲家と
して考えていた老人ホー
ム入居の時期を早めざる
を得ないと再検討したり
もしました。

アシュラム修道場生活記

その5「修道生」

伊達 平和

アシュラムセンター修道場に住む4名の修道生の朝は早い。6時からアシュラムセンターにて執り行われる早天祈祷会に先立ち、4時半に起床、各自で身支度、新しい一日を与えられたことに感謝の祈りを捧げる。5時からは修道場の庭と畑の手入れ。草を引き、センターでの朝食に持っていく野菜を収穫。センターにて早天祈祷会を皆で守り霊の糧を、るんるん福音食堂で肉の糧をいただき、登校・出勤。帰宅後は晩御飯の用意。皆揃って感謝の祈りともに夕飯。夕飯は一汁三菜を基本とし、畑で収穫した野菜や漬物などが並ぶ。夕飯の後、それぞれ聖書や神学書を読み、共有し、討論し、今日も一日守られたことに感謝しつつ10時に就寝する—そんな生活が「理想」である。一方、現実はというと、これがなかなか、いやどうしてかしらん、筆舌に尽くしがたい生活、ということにしておきたい。

さて、驚かれた方もいるかもしれないが、修道場では、4月から新たに2名の修道生を迎え、計4名での生活が始まっている。大学1年生、大学院生、社会人2名と、平均年齢は25.5歳である。というわけで、朝の早天祈祷会は、いつのまにか若者と信仰の先達がほぼ同数となり、世代間の交わりの時となっている。あと一人修道場に来たら若者は過半数の議席を獲得し、独立も夢ではない（ただし、独立宣言とともに、兵糧攻めが開始されることは想像に難くない）。いずれにせよ、この修道場の独立を阻むためにもアシュラムの友の皆さんは積極的にセンターに応援に来られたい。

若者が増えてもセンターの日課は変わらない。変わったことといえば、るんるん福音食堂のシェフるつ子さんが、筆者ではなく一番年下のトッシーに「おかわりいらんか」と日々世話を焼くようになったことくらいである。しかし

日課は変わらずとも、若者の多い早天祈祷会はそれまでとは違ったものになっているように思う。今回は、若者が早天祈祷会にいることメリットを報告したい。最大のメリットは「恵の時」のハードルが下がることである。若者の発想は自由であり、時には「さっぱりわかりませんでした」ということも、「この箇所の悪魔は神様と仲良さそう」という大胆な仮説を述べることも恐れない。そのおかげで、普段正直に言えないような意見も素直に共有できる。これが、若者が多いことのメリットであり、信仰の先達にもよい(?)刺激になっていると勝手に信じている。

一方で、先達の話は、若者にとって目が開かれる契機になっている。例えば先日の熊本（復興）アシュラムでは、使徒言行録の1-3章を静聴した。この使徒言行録の冒頭は「テオフィロさま」という呼びかけの言葉から始まっている。筆者の場合「いきなりテオフィロって誰やねん」というツッコミがまず浮かぶわけだが、先達曰く「記者が『テオフィロさま』という、特定の個人に宛てていることを思うと、使徒言行録の一つ一つの言葉が自分にも宛てられて書かれたように迫ってくる気がする」。目からうろこがはらはらと落ちるような思いがしたのであった。

なにはともあれ、アシュラムセンター修道場に集う若者は、ちいろば先生が願ったように、日々の早天祈祷会生活を通して間違いなく霊的な訓練を受けている。冒頭に示したように、ちいろば先生が神学生時代に過ごした「世光寮」のような徹底的な生活は出来ていないが、アシュラムセンター修道生の今後の成長に期待してほしい。なお、「筆舌に尽くしがたい」その修道場内部の生活の様子はまた稿を改めて書く予定である。それまで仲良く生活が続くように、この修道場を覚え、祈っていただけると感謝である。というわけで次回「隣（の部屋の住）人を愛せ」。お楽しみに。

アシュラムセンター修道場Facebookページができました！
<https://www.facebook.com/ashram.monastery/>
生活記「番外編」や修道場の風景をお楽しみください。

「主のみ手に支えられて」

使徒 13 : 36 前半 (口語訳)

(第42回 年頭アシュラム 奨励 要約)

神原 喜三郎

私が初めて榎本保郎先生とお会いしたのは、1972年の「今治アシュラム」の時でした。それ以来、榎本先生を通して語られる聖書の御言葉や、先生ご自身の御言葉に従う生き様を通して、信仰生活は神様の御言葉を聴いて従うということが大切だと学びました。そして私もそんな生き方が出来たらいいなと思いましたが、なかなか出来ませんでした。しかし1976年、年頭アシュラムの集会で榎本先生のメッセージを通して神様の招きを受け、立たされてしまいました。その後、様々な恐れと不安の中で震え、小さく小さくなっていた時、「私は石ころからでもアブラハムを造ることが出来る」、「神はあえて無きに等しい者を選んだ」というみ言葉を通して、私があの時招かれたのは、私のように「私が牧師になれるだろうか」と悩んでいる人達を励ますための見本として招かれたのだ。私はただ神様を信頼し、従えば良いのだとわかりました。だから私が神学校へ入ることが出来たのも、イエス様を通して私がどんなに愛されているかわかった時、「このお方のためならどうなっても

構わない。どこへでも行こう。何でもさせていただこう」と思ったからでした。



あれから40年、今ではそれが神様の言葉であるならば大丈夫、神様の言葉こそ、一番確実であり、これ以上安全なものはない・・・と、言えるようになりました。

それは、旧約聖書の中には、神様からのたくさんの約束がありますが、その約束されたことが、時が満ちた時、1つももれることなく成就しているのを見る時、神様は真実な方で、必ずご自分が語られたことを実現して下さるお方であることがわかったこと。そして神様から御言葉を示され、素直に従えなくて神様と格闘し、最終的に神様の恵みに押し出されて一步を踏み出す。その時、神様がご自身の業を成して下さり、栄光を拝させて下さったことを、何度も体験させていただいたからです。

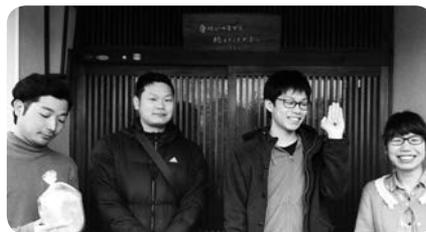
それ以来、信仰生活がとてもシンプルになりました。これまでの歩みの中で、神様はみ言葉に従った時にご自身のみ業を成して下さり、栄光を拝させて下さったことを感謝します。「人は何者なので、これを御心にとめられるのですか。人の子は何者なので、これを顧みられるのですか」(詩篇 8 : 4) すべての栄光を神様にお返しします。(終)



あ と が き

今年のゴールデンウィークは、第50回熊本(復興)アシュラムへ行って来た。遠くは北海道から、また関西、九州福岡、鹿児島、そして地元の熊本から総勢27名のアシュラムの友が集い、地震から一年あまりたつ阿蘇の地で集会を持った。多くの友が、熊本の被災地に祈りを合わせてくださったことを感謝する。しかし被災地の現実、倒壊したままの建物が残され、仮設住宅にはまだ大勢の人が暮らしている。そしてそれは、どんどん弱い人にしわ寄せがきているのだ。東北でも状況は変わらないのだろう。アシュラムセンターでは、東北岩手の野田村とともに、この熊本西原町の支援も続けていく。それほど大きなことはできないが、続けていくことにこそ私たちの祈りの意味がある。これからも、ともに祈り支えていこう。(恵)

ようこそ、アシュラムセンターへ！ 共に早天祈祷会、愛さん、感謝！



期待の修道生 左から
光太兄、平和兄、トッシー&ヤモリ、知恵姉



るつ子姉の大親友
♪美智子姉♪



野村氏(千葉)
和子母の甥



久留米より
池田兄

6月の聖書教室など

2(金)	阪神ミニアシュラム
7(木)	カフェちろば聖書入門講座
8(木)	常任運営委員会
10(土)	広野祈りの家
11(日)	愛農聖書集会
12(月)	福岡聖書教室
13(火)	大阪聖書教室
16(金)	センター聖書教室
18(日)	ちろば牧師記念チャペル夕礼拝・愛餐会
22(木)	沖縄聖書教室
26(月)	静岡聖書教室
27(火)	東京聖書教室
27(火)	桜美林リトリートアシュラム



6月のアシュラムなど

13(火)	埼玉一日アシュラム (上尾キリスト教会) 奉仕者 岩波久一師	048-726-2208 秋山信夫師
15(木) ~ 17(土)	第43回 加太アシュラム (加太国民休暇村) 奉仕者 櫻本栄次師	072-445-8235 西川 武師
20(火)	第7回 札幌一日アシュラム (北海道クリスチャンセンター) 奉仕者 岩波久一師	011-561-7951 吉田すみ彥師
21(水) ~ 24(土)	たびんちゅ牧師と行く 沖縄平和巡礼の旅 奉仕者 櫻本恵師 22(木) 沖縄聖書教室 南風原町嬉の里 PM6:30~	0748-33-4030 アシュラムセンター
27(火) ~ 29(木)	第42回 教職アシュラム (霊性センター) 奉仕者 村瀬俊夫師	042-373-2577 本田英一師

7月のアシュラム予定

17(月) 祝	福岡一日アシュラム 奉仕者 櫻本恵師	092-942-3145 矢野敏博師
20(木) ~ 22(土)	常任運営委員のための修道場アシュラム	
22(土)	天上の友を憶える日礼拝 (宇治霊園) AM11:00~ 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター

第14回 国際正義・平和アシュラム/
ちろば牧師召天40周年記念会in神戸

9月25日(月)~27日(水)

会場 ANAクラウンプラザホテル神戸
日本キリスト教団 神戸聖愛教会

奉仕者 櫻本 恵師
山岡三治 神父(イエズス会)
森下辰衛 氏(三浦綾子読書会代表)
沢 知恵 氏(シンガーソングライター)

詳細は次号!

みことば

日本キリスト教団
西川口教会牧師 (埼玉)



金田 佐久子

「主イエスに聴く
マタイ福音書第6章より」
(2) 5~6節

祈りとは何でしょう。主イエスは、祈りにおいてわたしたちは偽善者になりかねない、と恐ろしいことをおっしゃいます(5節)。「わたしはこんなに祈っているのだ」と、人に見てもらいたい誘惑があるのです。けれどもわたしは、アシュラム誌の読者にはそのような人よりも、むしろ、「祈れるようになりたい」と願っておられる方がいらっしゃるのではないかと思います。主はわたしたちに、まことに具体的に祈りを示してくださいました。「自分の部屋に入り、戸を閉めて」祈る(6節)。この「部屋」とは、パレスチナの農家で納屋や物置のように使われた部屋のことで、窓がなく、戸を閉じると真っ暗になるそうです。顔の前に自分の手をもってきても見ることもできないほどに真っ暗なところです。そこでは当然、祈りを人に見てもらうことはできない。同時に、自分で自分を見ることもできない、そういう部屋です。もちろん、その部屋が確保できなければ祈れない、ということではないでしょう。主イエスはわたしたちに、「祈るとき、あなたは、人からも自分からも隠れるのだ。そこで、隠れたところにおられるあなたの父があなたを見つめているのだよ」と語っておられるのではないのでしょうか。そうであれば、自分で自分の祈りをはかることも手放します。わたしは、ただ父なる神だけに見つめられている。それが祈りです。「そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる」(6節)。

2017年8月以降のアシュラム予定

8月21~23日	第27回 軽井沢アシュラム
9月8~9日	新潟アシュラム
9月17~18日	九州アシュラム
10月2~3日	山陰アシュラム
10月11~13日	第5回 日光オリーブの里アシュラム
10月20~21日	第22回 北陸・富山アシュラム
10月27~28日	第18回 愛知一泊アシュラム
11月6~7日	第38回 札幌アシュラム
11月21~23日	第42回 京浜アシュラム
11月23~25日	第41回 阪神アシュラム(一泊)